

第1回生命の海科学館見直し検討委員会記録

日時	平成20年5月23日(金)午後4時00分～午後5時35分
場所	情報ネットワークセンター メディアホール
議題	(1) 委員自己紹介 (2) 生命の海科学館見直し検討委員会要綱(案)について (3) 委員長の選任 (4) 施設の概要及び制約事項等について (5) 意見交換 (6) その他
出席委員	(12名) 伴 捷文(議会代表者:蒲郡市議会議員) 松本 昌成(議会代表者:蒲郡市議会議員) 鈴木 英文(教育分野市内有識者:蒲郡市教育委員長) 小沢 慎治(情報技術分野市内有識者:愛知工科大学教授) 遠山 憲章(観光分野市内有識者:蒲郡市観光協会専務理事) 伊奈 義兼(地元産業・経済分野市内有識者:蒲郡商工会議所副会頭) 岡本 俊一(市民代表者:公募市民) 永田 武満(市民代表者:公募市民) 長田 広子(市民代表者:女性代表) 牧 信男(市民代表者:地域代表) 小林 憲三(行政代表者:企画部長) 小笠原久和(行政代表者:生命の海科学館館長)
欠席委員	(なし)
事務局出席者	4名
一般傍聴	12名

議事

[開会 午後 4 時 0 0 分]

1 開会

〔小沢委員から遅刻連絡有〕

〔第 1 回目の委員会であるため、委員長選任までの議事進行を臨時委員長として準備会会長であった伴委員が務める〕

2 企画部企画広報課長あいさつ

企画広報課長

・検討委員会設立の経緯及びこれまでの経過について説明

科学館の見直し検討に当たっては、昨年度 2 回の準備会を開催し、2 月に報告書を市長へ提出していただいた。それを受け、今回新たに 5 名の委員さんに参加をいただき、正式に第 1 回生命の海科学館見直し検討委員会を開催することになった。各委員におかれては、色々な角度から、また、冷静な目で施設の設置経緯や廃止、見直し等にかかる制約事項を整理していただき、市民にとって最善となる科学館の活用方法検討していただくようお願いしたい。

3 議題

(1) 委員自己紹介

〔各委員自己紹介〕

(2) 生命の海科学館見直し検討委員会要綱（案）の説明

〔情報ネットワークセンター長から配付資料要綱（案）各項目について説明〕

〔（案）についての意見・異議なし〕

〔（案）承認、要綱決定〕

(3) 委員長の選任

〔委員の互選により伴委員を委員長に選任〕

(3-2) 副委員長の選任

- 〔議題(4)に先立ち、委員長が要綱第4条第4項の規定に基づき、副委員長の指名を行う。〕
〔松本委員を副委員長に指名〕
〔委員の異議なし〕
〔松本委員を副委員長に選任〕

(4) 施設の概要及び制約事項等について

〔情報ネットワークセンター長が資料内容を説明〕

- ・施設の概要
- ・制約事項

財産処分の承認基準が緩和により、施設を転用する場合の制限について、自治体が総務大臣へ報告を行えば国が承認したものとみなす取扱いとなった。有償譲渡や有償の貸付を除く等制限を受ける場合もあるが、科学館を見直す上での制限が準備会の時点から緩和されることとなった。

- ・県内の博物館・科学館との比較

県内の有料の博物館・科学館との比較では、収益割合では「科学館」のみで比較した場合、ほぼ中庸に位置している。センター部分を含めた比較では、センターの収入はほとんどないため低い収益率となる。

委員質問・回答

委員

補助金の制限は緩和されたということだが、設計者の著作権の関係はどうか。

事務局

著作者の意に反した改変を受けないという権利と、市が施設を維持するために変更しなければならない必要性を比較した上での判断となる。建築物については、認められる範囲が広いが、いずれにしても著作者との協議、同意の上で行う必要がある。

委員

この委員会は、科学館をどうするかでセンター部分は触れないということではなかったか。

事務局

施設配置や職員の体制を見た場合、センター部分に全く触れずにご検討いただくのは不可能だと考えられる。複合施設として含めて検討していただきたい。

委員

施設を造ったときの目標、計画数値はあるのか。当初の目標に対して現在の数値がどうかということでないとは判断はできない。

事務局

手元に資料を持ち合わせていない。平成11年、12年頃の科学館・センターの入場者が10万人あるが、その数字でも少なかったと記憶している。

開館当時からこれまで、情報化の進展は大きく、また教育方面への活用の充実をするなど、施設の見方も少し変わってきたと感じている。

委員

教育委員会で言えば、年間1億3,500万円くらい使う図書館は収益を上げない施設だが今年指定管理者制度でやっていく。図書館のような収益を上げない施設でもそうしなくてはならなくなっている。教育で活用するならもっとやり方があると思う。

委員

入館者の統計だけが出されているが、ネットワークセンターとして来館しない人にも利益があると思う。来館しない人の利益については。

事務局

Web 科学館として展示物をパソコン上で見ることができる。これが、年60万アクセス以上ある。施設の規模から見てアクセス数は非常に大きいし、現実の科学館だけでなく Web 上の科学館として活用されている面が非常に大きい。

委員

ネットワークセンターの受益者としては、そういう数値もカウントに入れて考えるべきである。入場者統計としては正しいかもしれないが、そうした入場しない受益者がこのままではゼロに見えてしまう。

委員

この施設の一部を民間に貸し出すことは可能か。例えば、1階部分を貸し出すことは。

事務局

部分的に貸すならどうかとか、貸す相手方が民間、NPO 等ではどうかとか、全くダメではないと思うが、いろいろな設定で条件が変わってくる。調べておく。

(5) 意見交換

委員意見

- ・ 公共施設としてどのくらいの赤字まで許されるのか、その点では利用状況というのが今後一番影響してくると思う。
- ・ 観光関係者が観光資源としてどのくらい活用しよう考えているか知る必要がある。
- ・ 教育では、現場の先生がどの程度活用に期待をしているのか知りたい。
- ・ 展示会やシアターでのコンサートなど、生涯教育、子どもの教育と二面で考え、科学館部分を絵の展示など市民が利用できるような方法を考えていただきたい。
- ・ 映像装置としてはよくできているが、コンテンツの更新が必要である。大学やアマチュアの方、現場の先生が作成することができるようにすれば費用をかけずに内容更新が出来、いい装置が有効に使えらると思う。
- ・ 観光宿泊客の2割アップという市長の観光に関する市長の数値目標の達成は、連泊客、リピーター客を増やす必要がある。その点では楽しむための観光施設が減ることはマイナスである。
- ・ センターと科学館について、実際の赤字が厳格に区分される必要があると思う。
- ・ 東港が開発されればこの建物は入口のキーポイントとなる。ある程度東港と関連して考えることが必要。
- ・ 委員の中に館長が含まれていることに違和感を覚える。
- ・ 複合施設としてもともと利益は度外視して建てられたと思う。赤字が出たから存続か廃止かという議論はナンセンス。
- ・ 民間に委託したりして、できるならつくったものは存続したいが、余りにも膨大な赤字なら考えなければならない。
- ・ どちらの方向に行ってもお金が必要になる。多少の赤字で押さえていけるなら存続という可能性もある。
- ・ 造るときは大変で壊すのは簡単である。簡単に壊すと言うが、次世代の子どものためにこうした施設を残してやりたい。お金が要るからやめると言うのは姑息過ぎないか。
- ・ 見直しをどう思うかというアンケートをとったら、「いらぬ」という人が多かった。しかし、「壊した方がよい」という人のほとんどが入ったことの無い人だった。
- ・ いろいろな人を連れてきたが、蒲郡市以外の人はこの施設を「素晴らしい」と言った。本物があり、手で触れることが出来、説明をしてもらえ、こんな素晴らしい施設は少ないと言われた。
- ・ 蒲郡に科学館があつて、手で触れて目で見、いろいろな知識を小さい子どものうちから慣れ親しむことは大切。何とか残して誇りに思えるような科学館になったらいい。
- ・ 1階の情報ネットワークセンター部分が無駄な使い方と思う。一部民間の力を入れて集客力を高めることが必要。
- ・ 入場料を200円か300円にし、どんどん見てもらい、物産センターとかお土産センターみたいな形で民間業者の力を借りる。そうしたことで観光バスを呼び込む取組みが

必要。

- ・アピタの集客力も利用すべき。
- ・蒲郡中心部エリアの核として蒲郡の顔というようなものとなればよいと思う。
- ・壊すのはいつでも壊せる。いろいろなアイデアの中で再チャレンジする機会が与えられればと思う。
- ・10年で科学館はやっと定着しかけたところである。蒲郡のシンボルとして誇りを持つ科学館にしていくことが必要。
- ・公共施設の中でも観光ポイントとして一番の立地条件を活かしていく必要がある。
- ・逼迫した蒲郡市の財政状況で赤字の施設は全て切り捨てなければならない、そうした時期にある。そうした観点で採算の合うような形に慎重に考えていく必要がある。
- ・蒲郡の顔として、産業の発展、観光、これらが連携できないかと思う。

(6) その他

〔次回スケジュールの調整〕

事務局が改めて日程調整を行う。

4 閉会

[午後5時35分閉会]